

カリキュラムとGraduation Policy(GP)との相互依存関係一覧表

記入者名	観光政策学科教員
記入年月日	2009/3/27
学部・研究科名	経済学部
学科・専攻等名	観光政策学科
コース等名	

学部・研究科の教育目的(具体的に記述・箇条書き)			学科・専攻科等の教育目的(具体的に記述・箇条書き)							
1. 「発見し、はぐくみ、かたちにする」を体現する人材を育成する。 2. 自ら問いを見だし、見出した問いを自らの中にはぐくんで解決の方策を探求したり、あるいは自ら進むべき道を模索したりすることのできる人材を育成する。 3. 探求や模索の結果得られた知見や考えを生かす能力を養い、世界や社会に貢献し得る実践的経済人を育成する。			1. 観光経済の持続可能な発展のために、観光活動に見られる特有な現象や矛盾を分析し、観光資源の維持や有効利用などを含めた観光政策を検討する。そのために経済学、経営学、産業論、環境学、統計学などの学問を学ぶ。 2. 非居住者である観光客との人的交流は観光に不可欠である。グローバルな発想と語学力をベースにし、観光交流の発展を視野に入れた人的交流能力、すなわち観光コミュニケーション能力の向上のために主に語学、観光文化・心理、社会コミュニケーションなどの学問とスキルを学ぶ。							
学部・研究科等のカリキュラム			学科・研究科等のGraduation Policy(GP) (◎=GP達成のために、特に重要な事項、○=GP達成のために、重要な事項、△=GP達成のために、望ましい事項)							
授業科目名	授業科目の主題(箇条書き) (この授業科目における中心となる題目・問題・テーマ等を箇条書きに記入する。)	授業科目の到達目標(箇条書き) (この授業科目の学習後に到達すべき最低限の(行動)目標を学生が主語で行為動詞を使用して箇条書きに記入する。)	A. 観光経済を正確に理解し、分析する能力を身につける。	B. 観光経済の分析能力をもとに、現実の観光経済政策に貢献できるようにする。	C. 観光コミュニケーション能力向上のための知識とスキルを修得する。	D. グローバルな人的交流を通じて、観光コミュニケーション能力を高める。				
観光概論	1. 今日の大衆観光の物的、価値的な成立条件。 2. 観光の諸定義および観光概念の把握。 3. 観光の現状と課題。	1. 産業革命以降の大衆観光の歴史的背景を認識する。 2. 観光を定義づける。 3. 持続可能な観光開発を説明できるようにする。	◎	2. ◎ 3. ◎	△	△				
観光経済学	1. 観光経済の概念 2. 観光需給および観光マーケティングに関するミクロ経済的分析 3. 観光のマクロ経済的分析	1. 観光商品の概念と特徴が説明できる。 2. 観光需給の法則と弾力性が理解できる。 3. 観光収入とその分配-経済波及効果を理解し、説明できる。	◎	◎	△					
観光経済政策総論	1. 観光経済政策の意義 2. 持続可能な観光開発	1. 観光経済政策を経済政策の一環としてとらえる。 2. 観光資源の開発と保護に関心を抱き、観光法規・観光政策と現実の観光振興を結び付けて考えられる。	○	◎	△					
観光のための経済統計学	1. 観光のための経済政策立案には、観光産業活動の実態やそれを取り巻く経済の状況、新たな観光産業への取り組みを定量的に評価できることを知る。 2. 観光関連データや地域経済データの特性と統計学的分析手法を学ぶ。 3. 観光のための経済政策に提供できる数値情報の作成する能力を養う。 4. 国、都道府県、市町村で公表されている数値情報、アンケート調査の実施方法を学ぶ。	1. 学生は、代表的な経済、観光のデータの特徴、統計的処理について理解している。実際にそれらのデータを入手し、分析に活用できる。 2. アンケート調査を行う方法、取りまとめ方、さらにアンケート調査結果に対し、正しく理解している。	1. ◎ 2. ◎ 3. ○ 4. ○	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎ 4. ◎						
観光サテライト・アカウントマーケティング	1. 観光産業の経済波及効果の特性と利用方法を知る。 2. 多産業部門間の相互依存関係を通して経済の循環構造を定量的に分析できるツールの1つに産業連関分析を学ぶ。 3. 産業連関分析を含めた計量経済学的手法を学び、実証分析を行う。 4. 地域経済における観光産業活動とその役割、観光政策の有効性についての評価を考察できる分析能力を養う。	1. 学生は、SNAIにおけるサテライトアカウントの位置付けを理解し、観光データの現状と問題点を具体的に解説することができる。 2. 観光データとその他の経済データを用いて観光サテライトアカウントを計測する方法を解説ができ、課題問題として提示されたデータにおいて計測することができる。 3. 産業連関分析を理解し、産業連関表を用いた観光消費と観光関連施設の建設等の波及効果の分析を行うことができる。	1. ◎ 2. ○ 3. ○ 4. ○	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎ 4. ◎						

観光サテライト・アカウント実務	1.UNWTO(国連世界観光機関)を中心に普及が促進されている観光経済統計の国際基準TSA(観光サテライトアカウント)について、その概念と編纂についての基礎的知識を身に付ける。 2.実際の作業の進め方と留意点を知る。 3.TSAの概念を理解するとともに、観光統計・経済統計に関わる体系的で広範な知識を習得し、統計データの読解力の向上、及びその取扱い方法について学ぶ。	1.統計データについての体系的な知識を得て、統計データの取扱の留意点を知る 2.統計データや図表を読み、観光経済のあらましを読み解く力を付ける。 3.観光統計とその背景にある観光市場の変化についての関心を高める。 4.観光産業の地域経済における貢献度を踏まえた上で、観光のあり方について考えることができる。 5.観光統計を元に図表や指標を作成し自分の考え方を伝える技法に習熟する。 6.観光統計に接した時に対象の定義の把握や推計値の癖を見抜く姿勢を持つ。	1.◎ 2.◎ 3.◎	1.◎ 2.◎ 3.◎								
観光産業総論	1.観光産業の概念 2.観光産業の質的分析 3.観光産業6業種の特徴	1.観光産業の意義を述べることができる。 2.観光産業の特質を説明できる。 3.観光産業の6業種の特徴と内容について踏み込んで説明できる。	◎	◎	△							
観光管理会計	観光施設に関する財務面を企業会計の立場から検討する	財務諸表を読み取り、経営分析に役立てる。	◎	◎								
交通産業論	観光地へ行くために使用される交通手段と、観光目的で使用される交通手段(遊具を含む)について、文化とビジネスという観点から解説する。	観光に関わる現代の交通産業における基本的な諸問題について理解し、問題点について説明できる。		○								
広告宣伝論	広告と宣伝を歴史、制度、市場そしてグローバルな視野から分析する。	1.学生の広告・宣伝に関する知識を深める。 2.学生が広告メディアをもっと効率的に利用できる。	△	△	◎	◎						
実践情報技術	1.観光産業におけるインターネットを始めとする情報技術の役割について紹介、 2.地方の観光資源について発信PRするための実践情報技術を学び、 3.映像・動画・(英語および日本語)の記事の作成の仕方を実習する	1.観光産業における情報技術の重要性についての理解 2.地方の観光資源について発信PRするための実践情報技術を修得 3.山口県(西日本)の観光し芸を取材し、それを題材とする映像・動画・(英文・和文)のホームページ作成	○	○	◎	◎						
旅行契約と約款	旅行契約と約款について、基本的な内容を中心に講義する。	法学の基礎知識と、法的に考える能力を身につける	◎	○								
観光と環境	1.観光資源は、自然環境を基盤とした自然資本、長い歴史を含む文化によって人間が作りだした文化資本、近年の社会的ニーズによって作りだされた民間資本などがあり、様々な形成過程や特徴を知る。 2.資本に対する経済学理論による捉え方を学ぶ。 3.自然環境および環境問題の保全政策や環境評価、観光資源となる文化資本の価値を理解する内容を提示した上で、日本国内や海外の観光資源として環境政策や環境への取り組みを利用した事例を知る。	1.学生は、観光資源の属する様々な資本を理解し、経済学の外部性の観点で環境を捉える。 2.環境政策の観光への適用を学ぶことにより、観光資源を多様な側面から理解する。	1.◎ 2.◎ 3.◎	1.○ 2.○ 3.◎								

エコ・ツーリズム論	生態系の役割を正しく理解しなければ、観光という人間の経済活動は自然環境に大きなインパクトを与える可能性がある。世界各地で、観光産業の発展にともなう生態系や自然環境の衰退、破壊に起因する事例は数多く報告される。逆に生態系や自然環境の仕組みをうまく利用すれば、持続可能な観光という目標を達成することは可能である。	環境経済学の経済学的分析手法を学びながら、生態学の基本知識を学ぶ。 ・オーストラリア、ニュージーランドやコスタリカなどの国々で展開されている様々なエコツーリズムの先進事例を分析し、生態系や観光資源の保全の重要性を多様な側面で理解する。	○	◎	○	○						
観光地理学	1.観光地理学の諸定義と専門用語。 2.各地域における観光の独自性。	1.観光地理学に関する基本的な概念や歴史的背景、関連産業との結びつき、社会・文化的な影響等について理解する。 2.観光地理学に関する諸現象のうち、特に欧米諸国およびアジア太平洋諸国に関する事例を包括的に分析できる。	◎	◎								
地域自然地理学	1.地域の自然環境を、人間の営みと結びつけて考え、理解することができる能力を養う。 2. 小学校、中学校社会科の地域学習において、どのように自然環境を取り扱うべきかを学ぶ。	1. 地域の自然環境を地図や画像などを用いて具体的に説明できる。 2. 地域の自然景観と人間生活との関係を解き明かすことに知的な関心を示すことができる。 3. 授業の中での地図作業等により、説明しようとする事柄を他の人に説得的に表現できる。	○	○								
都市計画学	都市計画は、人々が安全で快適に生活できるとともに、活気あるまちづくりを進めるためのものです。授業では、都市計画の基本的な仕組みを教えるとともに、世界や日本の都市計画の代表的な例をビジュアルで紹介し、都市計画がいかに魅力的な空間を創出するかについて、解説します。	都市計画が規制と事業を基本的な仕組みとしていることが説明できる。 話題の大型再開発プロジェクトが都市再開発事業手法と関係つけて、理解できる。 身近な都市を想定して、その都市の問題点を指摘できる。 身近な都市を想定して、その都市をより魅力的にするための方策を指摘できる。 国内外の都市計画への関心を高め、その特徴を討議できる。	○	○								
景観計画学	我々が日常、眼前にする景観の構造を把握すると共に、主観的側面が強い景観を客観的に評価し、景観の計画・設計へ導く「操作指標」の概念について講述する。さらに、景観計画を立案する手法及び景観形成に係る法制度について概説する。	1. 景観の構造を理解する。 2. 景観の「操作指標」の概念を理解する。 3. 景観計画の意義と役割を理解する。 4. 景観に関連する法制度の概要を理解する。	○	○								
感性心理学	人間の知覚・認知特性や社会的行動の基礎について学ぶ。生活の質の向上のために情報技術やデザイン工学が配慮すべきことについての洞察を深める。	1. 人間の知覚・認知における情報処理特性について理解する。 2. 快・不快、美感などの印象と知覚刺激特性との対応関係における基本特性を理解する。 3. 空間の認知、道具の使いやすさについての認知科学的成果を理解する。 4. 社会的動物としての人間の行動的基礎について理解する。	○	○								
空間デザイン史II	日本建築の歴史的な成り立ちを、社会・文化の様相と関連付けて理解し、日本建築のデザインに対する認識を高める。	日本における伝統的、歴史的な建築言語を理解した上で、同分野に関する専門用語を正しく使いながら、建築作品を分析、評価できる基礎的な知識を得ること。	○	○								
観光コミュニケーション	観光はアウトバウンド、インバウンドであれ、異文化との接触である。その接触で不可欠なものはコミュニケーションで、このコミュニケーションは観光の始めから終わりまで抜くことはない。 1. コミュニケーション実践をさまざまな形態(口頭・筆記;個人・集団;定住者・非定住者;企画・設計などのレベル)で行う。 2. その実践を通して自己発信の手がかりをつかむ。 3. 観光and/or政策そのものに関心を抱く。 4. 異文化との付き合い方を学び、関心を抱く。	1. コミュニケーションにはEQが必要であることを知る。 2. コミュニケーションの場での「自己発信力」を身につける。 3. 自己発信をするために、観光現象・企画・構想の観点から、筋道の通った論理思考をする。 4. 聞く人をそれによって納得させる、または、疑問を引き出させる力を持つ。 5. 自分の使う「ことば」に責任を持つ。	△	△	1.◎ 2.◎ 3.◎ 4.◎ 5.◎	1.◎ 2.◎ 3.◎ 4.◎ 5.◎						

異文化コミュニケーション論	1. 観光・文化接触における事例を考えながら異文化コミュニケーションの問題と重要性を考える 2. 観光産業における事例を題材としながら、「時間観」「空間観」「道徳観」「差別の心理学」など異文化コミュニケーション学の諸理論を紹介する 3. 授業内での擬似的な異文化体験として他の履修生・留学生と対話する 4. 異文化表象の事例を用いて、「文化」を理解することの問題を考える	1. 観光・文化接触における事例を知ること 2. 異文化コミュニケーションの問題と重要性を理解する 3. 観光産業における事例を題材としながら、「時間観」「空間観」「道徳観」「差別の心理学」など異文化コミュニケーション学の諸理論を理解すること 4. 他の履修生・留学生と対話する擬似的な異文化体験を得て異文化コミュニケーションの問題を意識すること	○	○	◎	◎							
情報メディア論	新聞、放送メディア、インターネットを歴史的、制度的、国際比較的に分析する。	1. 学生のマスメディアに関する知識を深める。 2. 学生がメディアをもっと効率的に利用できる。	△	△	◎	◎							
文化心理学	日本文化に関連する文化心理学の理論の紹介 国の光(文化)を観る観光における文化心理の位置を理解 観光産業の経営・観光資源の広報・観光商品開発を例としながら、文化が心理・消費者行動に及ぶ影響を学び、文化心理学の理論を応用	日本文化に関連する文化心理学の理論を理解すること 国の光(文化)を観る観光における文化心が占める位置を理解すること 文化が心理・消費者行動に及ぶ影響を理解することと文化心理学の理論が応用できること	○	○	◎	◎							
日本文化・宗教論	神道の祭典・神社仏閣・神道仏教関係の無形文化材などの日本の伝統文化やファッション・マンガ・テレビ・映画などの現代文化と日本の自然についての理論や特徴を紹介 有形・無形文化材などの観光資源の商品化について考える	日本伝統宗教文化・現代文化と日本の自然についての理論や特徴を理解 有形・無形文化材などの観光資源の商品化における問題と可能性を理解すること	○	○	◎	◎							
中国社会文化論	1、中国社会発展の特質を知る 2、文化や生活を知る	1、現代中国の歩んだ姿を理解する				△							
英米文化論	1. 英米の文化で、「旅」がどのようにとらえられているかを検証する。	1. 英米における「旅」の概念の理解を深める。 2. 英米(あるいは西洋)文化全般について理解を深める。	△		1.◎ 2.◎ 3.◎	1.◎ 2.◎ 3.◎							
山口の歴史と文化	1. 貴重な観光資源でもある地域の歴史や文化について深い造詣と正確な知識を学ぶ。 2. 我々の暮らす山口県の歴史や文化について、最新の研究成果に基づいた正しい知識の習得を目指す。 3. 地域の歴史や文化を、観光にどの様に活かせるのか、その可能性についても考察する。	1.山口県の歴史や文化に対する造詣を深め、その正確な知識を習得する。 2.山口という地域に対する興味・関心を深める。 3.観光行政や観光産業における地域の歴史や文化財の有効活用について、問題意識を養う。	1. △ 2. △ 3. △	1. △ 2. △ 3. ○	1. ○ 2. ○ 3. ○	1. ○ 2. ○ 3. ○							
アジア文化交流史	近代日本に留学した中国留学生の手記や日記を主に検討し、中国の「近代化」に日本留学が果たした役割を探る	近代の日中間の関係を中国人の日本留学という点に於いて捉え、その正負両面の相互関係について理解する			○	○							
アジア比較社会論	牛糞を燃やし、多数の貧困層を擁しつつ、核兵器を持ち、最先端のコンピュータ・ソフト産業が急成長する大国インドを、その戦略、指導者たちの動向・思考を通して、政治、経済、軍事、外交などの多方面から分析する。アメリカの世界戦略との関連が中心となる。	日本人のあいだに根深くはびこっている偏見に満ちたインド像から離れ、従来のインド認識を覆し、アメリカの世界戦略とグローバル化のなかで、現在進行形のインド社会を理解する。			○	○							

現代民俗論	現代民俗論は、民俗を通じて現代社会のありようを考えることをめざしています。この授業では、民俗の1つとして祭を取り上げ、ビデオ等の映像を用いつつ、各地に伝えられている祭の様子を紹介するとともに、祭のもつ多様性や現代的意義を考えます。	1. さまざまに祭が存在し現在も傳承されていることを知る 2. 祭の意味や内容にも多様性があることを知り、その多様性の要因を考える。 3. 祭を伝えている社会の文化や歴史のありようを探り、祭の現代的意義を考える。			○	○						
生活文化論	人間の暮らしをものの視点から考察する。文化人類学の物質文化研究、民俗学の民具研究の諸成果を示し、さらに現代の視点からの検討を加えながら授業を進めていきます。	人間が作り出した様々なものを社会的、システムの、技術的に読み解く力を養う。			○	○						
宗教学概論I	宗教学における基礎理論と主要なテーマを知ることからはじめ、宗教的な現象と表象の「理解」とそのための「方法」について考察する。宗教に特有かつ普遍的な事象を、宗教学および関連領域(宗教学、宗教心理学、宗教人類学など)の古典的な理論と方法論の視点から分析し、人間が全体としてどのようにして自らの宗教的行為、宗教的観念、宗教的様式、宗教的規範、宗教的経験などを構成したり位置付けたり認知したり具体化したりしているのかについて包括的・体系的に考察する。	宗教学という学問分野と宗教とは何かという課題について、一定の図式と枠組みを身につけ、個々の宗教現象を一定の視点をもって捉えたり分析したりできるようになることを目指す。			○	○						
食文化論	「食べる」営みは、自然条件、社会・経済条件によって形成された文化である。本講義では、世界および日本の食文化について講義する。	1.食文化とは何かについて説明できる。 2.世界および日本の食文化について理解する。 3.食文化の研究の意義を理解する。 4.食文化に関する自分の意見を論理的に述べることができる。 5.食に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。 6.日常生活の中で、食文化の問題について主体的に考えることができる。			○	○						
美術史II	日本美術史、とくに日本の世絵画史(室町期～江戸期)に関して、流派とスタイルという観点を理解する。なお 日本をとりまく当時の東アジア諸国とのつながりも含む。	1. 日本の室町期以降、江戸期までの絵画史の概観を説明できる。 2. 各時代に生まれた絵画作品の歴史的な位置付け、社会的、文化的背景を把握し、考察できる。 3. 日本絵画史の概観を知ることによって、当時の東アジアを中心とした諸外国との文化的な交流のあり方についての関心も喚起する。			○	○						
観光プロトコール	観光産業はホスピタリティー産業であり、その根本にあるのは「おもてなし」の心。そしてそれを「かたち」にするのが、プロトコール(国際儀礼の基本)です。この授業では、プロトコールの理論と実際を学び、観光産業でそれがどのように活かされているのかを学びます。同時にそれは将来、国際社会に出て活躍する学生のマナーやエチケットにもつながります。 授業の一般目標	1.観光産業におけるプロトコールの必要性を理解し、国旗の取り扱い、席次、右方上位、序列(Rank conscious)などの基本原則を様々な状況において実践できるようになることを目標とします。 2.観光産業の基本である「接客」の基本にはホスピタリティーの基本原則があることを理解する。 3.ルールを理解し、洗練されたマナーを身につける。	△	△	◎	◎						
リーディング(英語基礎強化)	1. 社会および経済学から要請されるコミュニケーションの一環のツールとしての英語の読むスキルを強化する 2. スキル強化によって理解度を高める 3. 同時に読む速度を高める 4. 速度・理解の向上によって文化社会の理解を深化させる。	1. 英語はコミュニケーションの道具であり、その道具には「使い方」と「精度」があることを理解する 2. 速度を増加させながら、同時に理解も増加させるスキルを身につける 3. 英語の論理構造を把握できるようになる 4. そのスキルを通して読んだ内容の自己発信ができ、社会・文化の関心・考察へ意識が向かい、批判的なものの読み方ができるようになる	△	△	1.◎ 2.◎ 3.◎ 4.◎	1.◎ 2.◎ 3.◎ 4.◎						

ライティング(英語基礎強化)	1. 社会および経済学から要請されるコミュニケーションの一環のツールとしての英語の書くスキルを強化する 2. スキル強化によって文章の伝達の精度を高める 3. 同時に書く速度を高める 4. 速度・精度の向上によって文化社会の理解を深化させる。	1. 英語はコミュニケーションの道具であり、その道具には「使い方」と「精度」があることを理解する 2. 書く速度・量・精度を増加させるスキルを身につける 3. 論理的に筋道を立てて書く内容を形成することができるようになる 4. そのスキルを通してまとまりのある内容の自己発信ができ、また、社会・文化の批判的考察が書いて表現できるようになる	△	△	1.◎ 2.◎ 3.◎ 4.◎	1.◎ 2.◎ 3.◎ 4.◎					
リスニング(英語基礎強化)	1. 英語のリスニング能力を鍛えること。2. 素材の内容を理解すること。	1. 英語のリスニング能力を向上させること。 2. 内容把握力を高めること。	△	△	◎	◎					
文法(英語基礎強化)	1. 大学入学以降、次第に曖昧になっている英文法の知識を再学習し、以前よりも確実な状態にすること。 2. 英文法の知識を、実践(リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング)において活かせるようになる練習をすること。	1. 学生が英文法の知識全般に関して不安な点がないような状態にさせること。 2. 学生が英文法の知識を英語の4技能において上手に活用できるよう状態にさせること。			1. ◎ 2. ◎	1. ◎ 2. ◎					
会話(英語基礎強化)	1. 授業の前にオンライン課題として学生生活や、山口の自然やお店などについてのテキストを解説し新しい単語を覚え、 2. 授業内では同話題について対話を行い、自分自身の生活を説明し、県内の名所などをお薦めしあう練習を行う	1. 英語の読解力の向上、 2. 山口県での学生生活を説明するための語彙を修得すること、 3. 山口県での自分自身の日常生活が説明・PR・質問できるよう、発信型の英語口頭表現能力を身に付ける事			◎	◎					
ビジネス英語	国際ビジネスの現場で使用される英語を、特に「読む」「書く」に重点を置いて学習する。	1. ビジネス文書を正しく理解し、書けるようになること。 2. ビジネス文書の背後(ビジネス環境、社内事情など)を正しく理解する。 3. 国際ビジネスへの関心を高める。 4. 国際理解力を高める。 5. 英語発想に基づく英語の文書作成能力をつける。			◎	◎					
ビジネス英語会話	ビジネス場面での実用的な英会話の例の学習と同様の英会話の練習	ビジネス場面において同僚と顧客に対して、英語での自己表現・コミュニケーション能力を身につけること			◎	◎					
ビジネス・ライティング	電子メールの文通を始めとするライティング練習を通して社内文章などビジネス場面でのライティング能力の向上	カウンターオファー・商品案内と売り込み・メモなど各種商業通信文が英語で書けるようになること			◎	◎					
現代経済英語	1. 最新の経済を扱った教材を用い、経済のさまざまな事象を表現する英語に慣れ親しみ、自ら使えるようになること。 2. 英語圏で発信された経済事象についての文章が、どのような視点で書かれているかを理解すること。	1. 学生が、「経済」を取り扱った文書を読んだり書いたりする際の抵抗感をなくさせること。 2. 学生が英語圏のメディア報道の視点について、見識をもつようにさせること。	1. ○ 2. ○		1. ◎ 2. ◎	1. ◎ 2. ◎					
時事英語	1. 時事問題に関する英語表現を学習すること。 2. 異文化圏での時事問題の扱い方を学ぶこと。	1. 時事問題に関する英語表現を習得すること。 2. 時事問題の扱いに関して、文化間の相違等を考察し、客観的分析能力を身に付けること。	△	△	◎	◎					

観光英語	1. 授業の前にオンライン課題として、山口県の名物・名所・名人・日常生活文化についてのテキストを解説し、同話題についてリスニングテストを行い、 2. 授業中に同上の話題について対話・PR・質問し合い 3. 授業後オンライン掲示板での課題として、同上の話題についての案内・PR英文記事を書いて、 自文化を説明・アピールする観光英語能力を向上させる 4. 英語の丁寧表現を学ぶ(口頭、筆記) 5. TOEIC SWテストを下敷きしながら観光を材料に用いる 6. 旅行に関する様々な局面での英語表現を学び、応用できるよう練習すること。	1. 観光関連話題の英語解読力とリスニング力の向上、 2. 山口県や出身地方の名物・名所・名人・日常生活文化を説明・案内するための語彙や文法表現を修得する事、 3. 同上の話題について説明・PR・質問できるよう、英語口頭能力及びライティング表現能力を身に付ける事 4. さまざまな角度から英語ではpolitenessが生じることを実践的に身につける 5. TOEIC SWで問われる効率的・効果的論理展開に基づいた自己発信表現法を身につける 6. 旅行に関する英語表現を身に付けること	△	△	1.◎ 2.◎ 3.◎ 4.◎ 5.◎ 6.◎	1.◎ 2.◎ 3.◎ 4.◎ 5.◎ 6.◎						
TOEIC400	TOEIC400は全国の大学の英語基礎力養成に大変役立つ科目。ここで、基本的なリスニング力と初級会話力をつけ、英語好きにさせることが目的。あくまでも今後のTOEIC学習への基礎固めという位置づけの科目。	まずはIP,SPテストで400点を確保し卒業要件を満たすことが、第一目標。同時に外国人とも対等に話せる免疫をつける。最終的には600点を目標とする勉強の基本を身につけたい。	△	△	◎	◎						
TOEFL STUDY	北米大学で留学生したい学生のために、TOEFL試験での得点数を増やすよう指導する	TEOFL試験問題に出題される語彙力と学問的な話題についてのリスニング能力を向上させる事			◎	◎						
TOEIC600	TOEIC600点は現在、多くの企業での入社要件となっており、大学院の院試でも問われる点となっているので、将来大きく羽ばたきたい学生は卒業までにどうしても取っておきたい点。この授業ではテスト対策だけでなく、英会話の基本も指導する。	まずは600点を確保したい。その上で730, 800と高得点を目標したい。留学を視野に入れれば最低でも600点が必要なので、会話力の増強とともにビジネス英語に強くなる勉強も目標したい。	△	△	◎	◎						
韓国語 I	韓国語の固有文字であるハングルを正確に発音し、韓国人の身近な話題・風習などを取り上げ韓国人の考え方や文化について理解を深める。	1. 表音文字ハンゲルの成立要件と音韻規則を理解すること。 2. 韓国語と日本語の類似点及び相違点を知ること。 3. 韓国文化に関心があること。 4. 出席及び積極的な授業参加が必要。			◎	○						
韓国語 II	韓国語の固有文字であるハングルを正確に発音し、韓国人の身近な話題・風習などを取り上げ韓国人の考え方や文化について理解を深める。	1. 表音文字ハンゲルの成立要件と音韻規則を理解すること。 2. 韓国語と日本語の類似点及び相違点を知ること。 3. 韓国文化に関心があること。 4. 出席及び積極的な授業参加が必要。			◎	○						
韓国語会話 I	韓国語で自己紹介ができ、日常生活に役立つ易しい韓国語会話ができるようにする。	1. よく使われる語彙を覚えてすぐに使えること。 2. 日韓両国の風習や文化の違いを言葉で感じること。 3. 韓国語や韓国人の考え方に興味をもつこと。 4. 自己紹介ができ、よく使われる単語で韓国語会話ができること。			◎	○						
韓国語会話 II	韓国語で自己紹介ができ、日常生活に役立つ易しい韓国語会話ができるようにする。	1. よく使われる語彙を覚えてすぐに使えること。 2. 日韓両国の風習や文化の違いを言葉で感じること。 3. 韓国語や韓国人の考え方に興味をもつこと。 4. 自己紹介ができ、よく使われる単語で韓国語会話ができること。			◎	○						

ビジネス韓国語 I	ビジネス場面での実用的な韓国語の例の学習と同様の韓国語の練習	ビジネス場面において同僚と顧客に対して、韓国語でのコミュニケーション能力を身につけること			◎	◎						
ビジネス韓国語 II	ビジネス場面での実用的な英会話の例の学習と同様の英会話の練習	ビジネス場面において同僚と顧客に対して、韓国語でのコミュニケーション能力を身につけること			◎	◎						
中国語(口語 I)	発音、語彙、文法など共通教育で習得した項目の確認、整理と拡充をしながら、具体的な場面を設定した対話文を繰り返し読んで、暗唱して、それからグループ或はペアの形で発表する	1. 基本的な会話ができる 2. よく使う慣用形、句型を身につけて、状況に応じて正しいコミュニケーションの方法、技法を習得する 3. 自身のこと、関心のあることについて質問と答えの方法など十分理解し運用する			◎	○						
中国語(口語 II)	発音、語彙、文法など共通教育で習得した項目の確認、整理と拡充をしながら、具体的な場面を設定した対話文を繰り返し読んで、暗唱して、それからグループ或はペアの形で発表する	1. 基本的な会話ができる 2. よく使う慣用形、句型を身につけて、状況に応じて正しいコミュニケーションの方法、技法を習得する 3. 自身のこと、関心のあることについて質問と答えの方法など十分理解し運用する			◎	○						
中国語(閲読 I)	1. 共通教育で習得した中国語能力を基礎に、読解能力を養成する。中国語文の構成、語法を再確認しながら、より複雑な表現、まとまった文章を読みこなし、内容を理解する能力を向上させることを目的とする。 2. 現代中国事情、社会、文化についての理解も深めていく。	1. 基本的語法、句型、語彙を習得する。 2. 一般的な文章を読みこなす力をつける。			1. ◎ 2. ◎	1. ◎ 2. ◎						
中国語(閲読 II)	1. 中国語(閲読 I)の続き科目、文章読解能力をさらに向上させる。2. 中国理解を進める。	1. 基本的語法、句型、語彙を習得する。2. 一般的な文章を読みこなす力をつける。			1. ◎ 2. ◎	1. ◎ 2. ◎						
中国語(聴力 I)	人とコミュニケーションをするとき、相手の話したことを聞き取れないと何を返事すればいいか全く見当もつかない。この聴力 I は、その大事な聞き取り能力を高めるトレーニングを中心に授業を進める。	1. 基本的な表現、語彙を聞き取ることができる 2. 発話の内容を理解できる			◎	○						
中国語(聴力 II)	人とコミュニケーションをするとき、相手の話したことを聞き取れないと何を返事すればいいか全く見当もつかない。この聴力 II は、その大事な聞き取り能力を高めるトレーニングを中心に授業を進める。	1. 基本的な表現、語彙を聞き取ることができる 2. 発話の内容を理解できる			◎	○						
中国語(作文)	基本的な文法を習得し、辞書の助けで易しい文章の大体の内容が理解できるレベルの者を対象とする。中国語のセンテンスをどう組み立てるのか勉強して、和文中訳、中文和訳・誤文訂正など数多くの練習をして、短文、作文及び表現能力を高めることを目指す。	1. 慣用語、句型を身につけて、訳文、短文の方法、形式を運用できる。 2. 自分の感情、考えなど正しく表現できる短文、作文を作る。			◎	○						
ビジネス中国語 I	1. 中国ビジネスで想定される典型的な場面を中心に中国語会話のトレーニングを行う 2. ビジネス関連文書の読解を行う 3. 中国ビジネスマナーなどにも触れる	1. 中国ビジネスの現場で役に立つ中国語コミュニケーション能力を身につける。 2. 各種ビジネス文書を中国ビジネスと関連させながら理解できる。 3. 中国ビジネスの習慣やマナーに対する理解を深める。			◎	○						

ビジネス中国語Ⅱ	1.中国ビジネスで想定される典型的な場面を中心に中国語会話のトレーニングを行う 2.ビジネス関連文書の読解を行う 3.中国ビジネスマナーなどにも触れる	1.中国ビジネスの現場で役に立つ中国語コミュニケーション能力を身につける。 2.各種ビジネス文書を中国ビジネスと関連させながら理解できる。 3.中国ビジネスの習慣やマナーに対する理解を深める。			◎	○					
ビジネス中国語Ⅱ	1.中国ビジネスで想定される典型的な場面を中心に中国語会話のトレーニングを行う 2.ビジネス関連文書の読解を行う 3.中国ビジネスマナーなどにも触れる	1.中国ビジネスの現場で役に立つ中国語コミュニケーション能力を身につける。 2.各種ビジネス文書を中国ビジネスと関連させながら理解できる。 3.中国ビジネスの習慣やマナーに対する理解を深める。			◎	○					
中国語基礎強化	1、中国語の文法をマスターし、読解能力を向上させる 2、聞き取り能力を強化する 3、中国語検定試験3級、中国語コミュニケーション能力検定(350)にチャレンジできる語学運用能力を養成する	1、中国語文法を完全に理解する 2、聞き取り能力を向上させる 3、中国語検定試験(主にTECC)に向けた学習を進める。			◎	○					
時事中国語	1、中国語メディアから発信される情報をつかむ基礎的な語学能力を養成する 2、社会的文化的背景を理解し、基本的な中国情報を身につける	1、基本的な語法、語彙を理解し、メディア情報独特の表現・文型を習得する 2、中国社会の状況を理解し、中国、日本、世界の情勢に積極的に関心をもつ			◎	○					
プロジェクト演習I	観光関連のプロジェクトを企画・実行し、報告する。	観光についての企画力を、社会との接点(実践)において培うとともに、それをレポートにまとめ、人前で発表できる能力(すなわちプレゼンテーション能力)をつける。	◎	△	◎	△					
プロジェクト演習II	「プロジェクト演習I」で得た経験を深めながら、違う視点から観光ビジネスを体験して、分析する。	1.観光ビジネスの現状を理解して、分析できる。 2.観光ビジネスの現地調査を通じて、コミュニケーション・スキルを磨く。	◎	△	◎	△					
演習I	観光および地域経済・観光関連のメディアや英語表現に関する知識や、それを分析するための諸理論についての理解を増やすこと によって、現在直面する多様な問題を解決のために必要な考え方・そのための能力を養うこと。 研究・考えについての口頭発表を行うこと	(担当教員によってゼミの目標には異なりがあります) ・学生は現実の観光、社会や経済問題について理解をし、それについての情報および関連するデータを収集することができる。 ・授業で取り扱うデータや様々な統計データの特徴や問題点を理解し、適切に分析・利用することができる。 ・観光や経済に関するレポートを作成する中で、レポートのテーマに合わせた統計データと分析ができる。	◎	◎	△	○					
演習Ⅱ	演習IIに基づいて、観光関連の経済・文化資源・メディアや観光を表現する言語を更に詳しく知り、経済を始めとする各教員の専門分野の理論の観点から観光を分析し、また得た知識・発案を伝える能力を身につけること 就職活動について考え、観光政策学科で学んだことを企業選択に生かす方法などの経験を共有しあうこと	(担当教員によってゼミの目標には異なりがあります) ・学生は現実の観光、社会や経済問題について理解をし、それについての情報および関連するデータを収集することができる。 ・授業で取り扱うデータや様々な統計データの特徴や問題点を理解し、経済分析に適切に利用することができる。 ・観光や経済に関するレポートを作成する中で、レポートのテーマに合わせた統計データと分析ができる。 ・卒業論文執筆ができるための学術論文の書き方やスタイルについての知識を身につけること	◎	◎	△	○					

卒論指導	演習Iや演習IIに基づいて、観光関連の経済・文化・メディアや観光をコミュニケーションするための表現を適宜に分析し、それに基づいた新しい政策の発案を卒業論文を執筆し形にすること 観光政策学科で学んだことを就活に生かす方法などの経験を共有しあうこと	演習Iや演習IIで考え・調査・分析してきた現象についての卒業論文を執筆すること 自らの研究・考えを口頭でも言い表し発表できる能力を磨くこと 就職内定を得るよう分析能力・発案力と自己表現力を見につけること	◎	◎	△	○					
GP項目別到達度判定方法(具体的に記述・箇条書き)											
総合的GP到達度判定方法(具体的に記述・箇条書き)											

例 卒業研究の達成度判定基準

発表内容に関する到達度判定	
判定する項目	判定

発表技法に関する到達度判定	
判定する項目	判定